資料6-1 研究開発審議会 評価に関する意見調書 【土木研】 (年度評価)

総合コメント

〇北海道における広範囲な課題に対し、十分とは言えない研究体制で諸課題に取り組み、所定の成果を上げていることに対して評価することができる。ただし、多少、コンパクトに纏まり過ぎている感がある。

研究部分

中期計画	意見
I 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向	
上に関する事項	
1 (1) ①	
社会的要請の高い課題への重点的・集中的な対応	<法人業務実績及び自己評価に対する意見>
	⑥、⑨、⑪、⑫、⑭の5つのプロジェクトに対して
	・概ね、計画は達成されているので、「B」評価は適切な判断と思われる。
	・外部評価委員会からの共通のコメントとして、「査読付き論文が少ない」との指摘が
	ある。課題によっては、論文として纏めるのが難しいものもあると思われるが、研究
	成果の外部発信は、重要な研究業務である。
	・研究対象が北海道に限定されるのは致し方ないところではあるが、課題によっては、
	国内外と関係の深いものがある。その様な課題に対しては、広く情報収集と交流を行
	うことで、研究に深みと幅が出てくると考える。
	ノ汁 1 光を存在を取り立つ 1111 (元) 12 (元
	<法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項>
1 (1) ②	
基盤的な研究開発の計画的な推進	<法人業務実績及び自己評価に対する意見>
	<法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項>

総合	_	1	٠,	L
T.T	_		_	Г

研究部分

研究部分	
中期計画	意見
I 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向	
上に関する事項	
1 (1) ①	
社会的要請の高い課題への重点的・集中的な対応	<法人業務実績及び自己評価に対する意見>
	⑥、⑨、⑪、⑫、⑭の5つのプロジェクトに対して
	・概ね、計画は達成されているので、「B」評価は適切な判断と思われる。
	・外部評価委員会からの共通のコメントとして、「査読付き論文が少ない」との指摘が
	ある。課題によっては、論文として纏めるのが難しいものもあると思われるが、研究
	成果の外部発信は、重要な研究業務である。
	・研究対象が北海道に限定されるのは致し方ないところではあるが、課題によっては、
	国内外と関係の深いものがある。その様な課題に対しては、広く情報収集と交流を行
	うことで、研究に深みと幅が出てくると考える。
	<法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項>
1 (1) @	
1 (1) ② 生成的 4 地 生	 <法人業務実績及び自己評価に対する意見>
基盤的な研究開発の計画的な推進	<伝入耒務夫賴及い日口評価に対りる息兒>
	 <法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項>

評価書様式

様式2-1-1 国立研究開発法人 年度評価 評価の概要様式

1. 評価対象に関	する事項	
法人名	国立研究開発法人土木研究原	听
評価対象事業年	年度評価	第3期中期目標期間(最終年度の実績見込を含む。)
度	中長期目標期間	平成 23~27 年度

2. 評価の実施者に関する	事項		
主務大臣	国土交通大臣		
法人所管部局	(評価を実施した部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)
評価点検部局	(主務大臣評価を取りまとめ、点検する部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)
主務大臣			
法人所管部局	(評価を実施した部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)
評価点検部局	(主務大臣評価を取りまとめ、点検する部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)

3. 評価の実施に関する事項

(実地調査、理事長・監事ヒアリング、研究開発に関する審議会からの意見聴取など、評価のために実施した手続等を記載)

4. その他評価に関する重要事項

(目標・計画の変更、評価対象法人に係る重要な変化、評価体制の変更に関する事項などを記載)

様式2-1-2 国立研究開発法人 年度評価 総合評定様式

1. 全体の評定								
評定		23年度	2 4 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
(S, A, B, C, D)								
評定に至った理由								
一	(工品計定に主りに発用を記載)							

3. 項目別評価の主な課題、改善事項等

(項目別評価で指摘した主な課題、改善事項等で、翌年度以降のフォローアップが必要な事項等を記載。中長期計画及び現時点の年度計画の変更が必要となる事項があれば必ず記載。項目別評価で示された主な助言、警告等があれば記載)

4. その他事項	
研究開発に関する審議	(研究開発に関する審議会の主な意見などについて記載)
会の主な意見	

様式2-1-3 国立研究開発法人 年度評価 項目別評定総括表様式

中長期目標(中長期計画)	中長期目標(中長期計画) 年度評価							項目	備考
	23	24	25	26	27			別調	
	年度	年度	年度	年度	年度			書No.	
I. 研究開発の成果の最大化その	他の業	美務の質	〔の向」	こに関す	トる事項	Į			
社会的要請の高い課題への重点 的・集中的な対応	A	A	A	В					
基盤的な研究開発の計画的な推 進	A	A	A	В					
平成 26 年度以降、評定区分の定義が変	変更されて	こいる。							
「研究開発に係る事務及び事業」につる。」場合、A評価とされ、平成26年月			_						·
る成果、取組等について諸事情を踏ま な成果の創出の期待等が認められ、着									出や将来的
	「研究開発に係る事務及び事業以外(業務運営の効率化に関わる事項等)」について、平成25年度までは「中期目標の達成に								
	向けて着実な実施状況にあると認められる。」場合、A評価とされ、平成26年度以降は、「中期計画における所期の目標を達成していると認められる(定量的指標においては対中期計画値(又は年度計画値)の100%以上120%未満)。」場合、B評								
価とされている。									

難易度を「高」と設定している項目については各評語に下線を引く。

	中長期目標(中長期計画)	年度評価 項目							項目別	備考
		23	24	25	26	27			調書No.	
		年度	年度	年度	年度	年度				
II	業務運営の効率化に関する事項									
Ⅲ. ∮	財務内容の改善に関する事項			l	l	l	1			
IV.	その他の事項									

[※]重要度を「高」と設定している項目については各評語の横に「○」を付す。

様式2-1-4-1 国立研究開発法人 年度評価 項目別評価調書(研究開発成果の最大化その他業務の質の向上に関する事項)様式

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
1 (1) ①	社会的要請の高い課題への重点的・集中的な対応		
関連する政策・施策		当該事業実施に係る根拠(個	独立行政法人土木研究所法第3条
		別法条文など)	
当該項目の重要度、難易	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策	(政策評価表若しくは事前分析表又は行政事業レビューのレビューシートの
度		評価・行政事業レビュー	番号を記載)

3. 中長期目標、中長期	期計画、年度計画、	主な評価軸、業務	実績等、年度評価に	に係る自己評価及び主務力	で臣による評価	
中長期目標	中長期計画	年度計画	主な評価軸(評	法人の業務実績	責等・自己評価	
			価の視点)、指標	主な業務実績等	自己評価	委員からの意見
				<u> </u>		
明確のいて、標るや反に究発的るの道食画北たたの発つ。間費)る当推明。 明確のいて、標るや反に究発的るの道食画北たたの発つ。間費)る当推明。 の応うのい行基うこをて集。、に開業ま発寒や要、施力の変ができまった。 原発・を道積資にい的際研部ねを完う成で、完全を指研、実際、大変を消費を変し、 原発・を道積資にい的際研部ねを完め、 のに、完全を対した。 のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	中期目標に対応する重実に対策発的で発生に対策をにに研究集のからない。 重点的かるため、以下のでは、以下のでは、以下のでは、はでは、は、はでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	社会的要請の変化等により、早急に対応する必要があるとと認められるのでは、課題に対応するプロント研究を立案し速やかに実施。	価の視点)、指標等 ①【妥当性のの方適 ②、取品が関の方適 とのも関系を ・取品が関系を でのが関系を でのが関系を でのが関系を でのが関系を でのが関系を がのが関系を でのの方適 にでるのが関系を でののででる でののででる が、取に値がない、経経がないのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので は、上のででのので に、した。 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	主な業務実績等 本文学	自己評価 自己評価 自己評価 自己評価 自己 自己 自己 自己 自己 自己 自己 自己	委員からの意見
				P55 ③吹雪・視程障害の予測に向けて、視程演算フローの改良を行うとともに、「吹雪の視界情報」サイトの試験運用を行った。 P19 ③高速道路用及び一般道路用の緩衝型ワイヤーロープ式防護柵を開発し、全国の高速道路等に試行導入された。P66		

4. その他参考情報

(諸事情の変化等評価に関連して参考となるような情報について記載)

様式2-1-4-1 国立研究開発法人 年度評価 項目別評価調書(研究開発成果の最大化その他業務の質の向上に関する事項)様式

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
1 (1) ②	基盤的な研究開発の計画的な推進		
関連する政策・施策		当該事業実施に係る根拠(個	独立行政法人土木研究所法第3条
		別法条文など)	
当該項目の重要度、難易	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策	(政策評価表若しくは事前分析表又は行政事業レビューのレビューシートの
度		評価・行政事業レビュー	番号を記載)

中長期目標	中長期計画	年度計画	主な評価軸(評	法人の業務2	実績等・自己評価	
			価の視点)、指標	主な業務実績等	自己評価	委員からの意見
			等			
基準の策定等を見据え、 我が国の土木技術の着 実な高度化や良質な社 会資本の整備及び北海	実な高度化整備進のの表質な社海 度化を構進なののでは を変質開発をできるのででである。 ができるででである。 ができるででである。 ができるでである。 ができるでである。 ができるでである。 ででは、 ででが、 でで	題について、各行政の計画やニーズの動向を勘案し計画的に実施。その際、長期的観点からのニーズを把握し、基礎的・先導的な研究開発を積極的に実施する。	等 ①【時間的観点】成	<主要な業務技師の大力では、 ・実施では、 ・実施では、 ・実施では、 ・実体のは、 ・実体のは、 ・の、 ・の、 ・の、 ・の、 ・の、 ・の、 ・の、 ・の	<評定と根拠> 評定: B 【定性的な観点】 ①「北海道における景観の社会効果に関する研究」では、効果の把握、評価手法について提案を行い技術資料「景観形成の効果と発現の考え方と評価手法に関する試案」として適切な形で創出・実施されている。 ②地盤の小~中ひずみ域のモデル化にあたり、全応カモデルにより、速度検層結果と動的変形試験の限	〈業務実績に対するコメント〉 (農水省所管の業務実績を踏まえたご意見、業務実績に対する今後の課題及び改善 方策、確認事項など)
	視野に入れ、他の研究機 関等が保有・管理するデ ータベースも有効に活 用する。				野の要素技術の進展、産学官各々の特性に配慮した有機的な連帯等を考慮し、基礎的、先導的な研究開発を計画的に実施することで、中期目標の達成は可能であると考えている。	

4. その他参考情報

(諸事情の変化等評価に関連して参考となるような情報について記載)

様式2-2-1 国立研究開発法人 中長期目標期間評価(見込評価) 評価の概要様式

1. 評価対象に関する事項							
法人名	国立研究開発法人土木研究所						
評価対象中長期	見込評価(中長期目標期間実績	第3期中期目標期間(最終年度の実績見込を含む。)					
目標期間	評価)						
	中長期目標期間	平成 23~27 年度					

2. 評価の実施者に関する事項									
主務大臣	国土交通大臣								
法人所管部局	(評価を実施した部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)						
評価点検部局	(主務大臣評価を取りまとめ、点検する部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)						
主務大臣									
法人所管部局	(評価を実施した部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)						
評価点検部局	(主務大臣評価を取りまとめ、点検する部局を記載)	担当課、責任者	(担当課、課長名等を記載)						

3. 評価の実施に関する事項

(実地調査、理事長・監事ヒアリング、研究開発に関する審議会からの意見聴取など、評価のために実施した手続等を記載)

4. その他評価に関する重要事項

(目標・計画の変更、評価対象法人に係る重要な変化、評価体制の変更に関する事項などを記載)

様式2-2-2 国立研究開発法人 中長期目標期間評価(見込評価) 総合評定様式

1. 全体の評定									
評定		(参考:見込評価)							
(S, A, B, C, D)									
評定に至った理由	(上記評定に至った理由を記載)								
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	(工品が足に主う)に発用を記載)								

3. 項目別評価の主な課題、改善事項等

(項目別評価で指摘した主な課題、改善事項等で、事務事業の見直し、新中長期目標の策定において特に考慮すべき事項があれば記載。今後の対応の必要性を検討すべき事項、政策・施策の変更への対応、目標策定の妥当性なども含めて改善が求められる事項があれば記載。項目別評価で示された主な助言、警告等があれば記載)

4. その他事項	
研究開発に関する審議	(研究開発に関する審議会の主な意見などについて記載)
会の主な意見	

様式2-2-3 国立研究開発法人 中長期目標期間評価(見込評価) 項目別評定総括表様式

中長期目標(中長期計画)	年度語	評価						中長期間記	明目標 平価	項目別調	備考欄	中長期	目標(中長期計画)	年度	評価					中長期間部		項目別調	備考欄
	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度			見込 評価	期間 実績 評価	書No.				23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度		見込評価	期間 実績 評価	書No.	
I. 研究開発の成果の最大	- 大化その	ューロック フ他の第	上 美務の質	 〔の向_	上に関す	ける事項	 頁		FT II		1	Ⅱ. 業	務運営の効率化に関す	る事項	Į Į			1			н г град		
社会的要請の高い課題へ の重点的・集中的な対応	A	A	A	В	-			В	-														
基盤的な研究開発の計画 的な推進	A	A	A	В	-			В	-														
																							-
平成 26 在度以降 延定区分の定		されてい	ス									Ⅲ. 則	務内容の改善に関する 	事項		<u> </u>		Т	1 1				
「研究開発に係る事務及び事業」 場合、A評価とされ、平成26年原 取組等について諸事情を踏まえ	平成 26 年度以降、評定区分の定義が変更されている。 「研究開発に係る事務及び事業」について、平成25年度までは「中期目標の達成に向けて着実な実施状況にあると認められる。」 場合、A評価とされ、平成26年度以降は、「国立研究開発法人の目的・業務、中長期目標等に照らし、法人の活動による成果、 取組等について諸事情を踏まえて総合的に勘案した結果、「研究開発成果の最大化」に向けて成果の創出や将来的な成果の創出 の期待等が認められ、着実な業務運営がなされている。」場合、B評価(標準)とされている。																						
「研究開発に関わる事務及び事業 向けて着実な実施状況にあると													N. L										
ていると認められる(定量的指												IV. Z	: の他の事項 				1						
											 _												
																							1

[※]重要度を「高」と設定している項目については各評語の横に「○」を付す。

難易度を「高」と設定している項目については各評語に下線を引く。

様式2-2-4-1 国立研究開発法人 中長期目標期間評価(見込評価) 項目別評価調書様式

1975 4 = 1 - 1		. 1 13.2	
1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
1 (1) ①	社会的要請の高い課題への重点的・集中的な対応		
関連する政策・施策		当該事業実施に係る根拠(個	独立行政法人土木研究所法第3条
		別法条文など)	
当該項目の重要度、難易	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策	(研究開発評価、政策評価表若しくは事前分析表又は行政事業レビューのレビ
度		評価・行政事業レビュー	ューシートの番号を記載)

中長期目標	中長期計画	主な評価軸 (評価の視	法人の業務実績・	自己評価	チョルと の辛日
		点)、指標等	主な業務実績等	自己評価	委員からの意見
見下の社会的要請に的確	中期目標に対応する重	①【妥当性の観点】成果・	<主要な業務実績>	<評定と根拠>	(MkZferdaldt) - LI] very book of
こ応えるため、研究所の行	点的研究開発を重点的	取組が国の方針や社会ニ	・①②③26 年度は中期目標で示す「安全・安	評定:B	<業務実績に対するコメント> (農水省所管の業務実績を踏まえたご意見、業務実績に対す
う研究開発のうち、以下の	かつ集中的に実施する	ーズと適合しているか	心な社会の実現」「グリーンイノベーションに	【定性的な観点】	一人展が自所官の未物失順を暗まえたことだ、未物失順に対象 今後の課題及び改善方策、確認事項など)
各項に示す目標について、	ため、以下に示すプロ	②【時間的観点】成果・	よる持続可能な社会の実現」「社会資本の戦略	①東日本大震災を受けて新たな研	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
国が実施する関連行政施	ジェクト研究および重	取組が期待された時期に	的な維持管理・長寿命化」「土木技術による国	究を実施する等、国の方針や社会	
策の立案や技術基準の策	点研究に対して、中期	適切な形で創出・実施さ	際貢献」の各目標に対応する 16 のプロジェク	ニーズと適合した取組を行ってい	
官等に反映しうる成果を	目標期間中における研	れているか	ト研究を継続して推進したほか、平成26年度	る。	
型期に得ることを目指す	究所全体の研究費のう	③【社会的・経済的観点】	は 13 課題の重点研究を新たにスタートさせる	②構造物の調査・点検技術の確立	
所究開発を重点的研究開	ち、概ね 75%を充当す	成果・取組が社会的価値	など、重点研究開発であるプロジェクト研究と	に資する成果が創出される等、期	
として位置づけ、重点的	ることを目途とする。	(安全・安心で心豊かな	重点研究に研究費の 75.6%を充当し (p.2)、	待された時期に適切な形で創出・	
つの集中的に実施するこ	ア) プロジェクト研究	社会等)の創出に貢献す	重点的かつ集中的に実施した。	実施されている	
- o	国が実施する関連行	るものであるか。	・①②③また、23 年度から 26 年度までの全て	③吹雪視程予測システム、ワイヤ	
きた、重点的研究開発の実	政施策の立案や技術基		の年度で実施したプロジェクト研究の事前評	ーロープ式防護柵等、このように	
他に際しては、北海道総合	準の策定等に反映しう		価で「適切」と評価された課題の割合、プロジ	実際の行政に反映されるような研	
開発計画及び食料・農業・	る成果を中期目標期間		ェクト研究の中間評価で「順調」と評価された	究成果が多く得られており、安	
農村基本計画等を踏まえ、	内に得ることを目指す		課題の割合、プロジェクト研究の事後評価で達	全・安心で心豊かな社会の創出に	
総合的な北海道開発を推	ものをプロジェクト研		成目標を「達成」と評価された課題の割合が基	貢献している。	
性するため、積雪寒冷に適	究として位置づけ、重		準値の 80%を達成した(p.3)。	【定量的な観点】	
ぶした社会資本や食料基	点的かつ集中的に実施			・①重点的研究開発課題に充当し	
盤の整備に必要な研究開	する。		主な取組は以下の通り	た予算割合は各年度において目標	
きについても、重点的かつ	イ)重点研究		・①東日本大震災を受け、津波作用時の力の伝	値(75%)を達成している。	
享中的に実施すること。	次期中期目標期間中		達メカニズム及び破壊モードを明らかにした	①②③研究評価委員会での評価	
その際、本中期目標期間中	にプロジェクト研究と		(p.15) _o	結果は「社会的要請と研究目的」、	
の研究所の総研究費(外部	して位置づける等によ		・②道路パトロール等の日常的な点検におけ	「進捗状況」、「達成目標への到達	
賃金等を除く。) の概ね	り、国が実施する関連		る、擁壁の異常を検出する手法を検討した	度」について、基準値(80%)を	
75%を充当することを目	行政施策の立案や技術		(p.55)。	達成している。	
金とする等、当該研究開発	基準の策定等に反映し		・③吹雪・視程障害の予測に向けて、視程演算		
ぶ的確に推進しうる環境	うる成果を早期に得る		フローの改良を行うとともに、「吹雪の視界情	<課題と対応>	
を整え、明確な成果を上げ	ことを目指すものを重		報」サイトの試験運用を行った(p.19)。	27 年度以降も引き続き重点的	
ること。	点研究として位置づ		・③高速道路用及び一般道路用の緩衝型ワイヤ	研究開発を重点的かつ集中的に実	
	け、重点的かつ集中的		ーロープ式防護柵を開発し、全国の高速道路等	施することにより、中期目標を達	
	に実施する。		に試行導入された (p.67)。	成できるものと考えている。	

4. その他参考情報

(諸情勢の変化、評価対象法人に係る分析等、必要に応じて欄を設け記載)

様式2-2-4-1 国立研究開発法人 中長期目標期間評価(見込評価) 項目別評価調書様式

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
1 (1) ②	基盤的な研究開発の計画的な推進								
関連する政策・施策		当該事業実施に係る根拠(個	独立行政法人土木研究所法第3条						
		別法条文など)							
当該項目の重要度、難易	(必要に応じて重要度及び難易度について記載)	関連する研究開発評価、政策	(研究開発評価、政策評価表若しくは事前分析表又は行政事業レビューのレビ						
度		評価・行政事業レビュー	ューシートの番号を記載)						

中央初日日 中央技術日画 主な評価画 大会評価画 大会評価画 大会評価画 大会評価画 大会評価 大会评估 大会评	度			評価・行政	(事業レビュー ユーシート	の番号を記載)					
本の作品を表現している。	3. 中長期目標、中長	3. 中長期目標、中長期計画、主な評価軸、業務実績等、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
四所将来実施する 対が回の1人技術の差異 1 日本的権の差異 1 日本的権の主義 1 日本的権の主义 1	中長期目標	中長期計画	主な評価軸(評価の視	法人の業務実	績・自己評価	チリンとの辛り					
□ (国内政策の立案を) なる変化の実践を発展の ・			点)、指標等	主な業務実績等	自己評価	安貝からの息見					
接近天地の東の主義と 見添え、表が国の主なと 発の比較の実施を対した地では、一次の動物 となる基礎の大変を対した。 発の形態の実施理解となる。 とから、表述の世の主がに確立の 関東の推動の課題の になる主義値の、生物で進展が、成立のである。 とから、表述の世の変がに確立な 関東の推動の課題を 進める。 大きの形態の実施理解となる。 表述の思となる基礎を 力を、表述の思した。 大きの表述となる基礎を 力を、表述の思した。 のから、のない、表が、のから、表述の思いた。 のから、大きの表述となる。 のから、表述の表述となる。 のから、表述のおいて、表述の表述となる。 のの、表述のおいて、表述の、表述などのなど、表述をして、ないまな、表述の思いと、表述の思いと、表述の思いと、表述の思いと、表述の思いまな。 のから、表述のおいて、表述の表述、表述の思いまな。 のから、表述のおいて、表述の表述、表述の思いまな。 のから、多様な科学技 が、分析の必定、多様な科学技 が、分析の必定、表述を持つと のない。実施した。有限のな地・無等 的な定し、方をいる。 のから、表述の、表述との事となと、表述を がなど、変がな科学技 が、分析の必定、多様な科学技 が、分析の必定、多様な科学技 が、分析の必定、表述とない。 「関照等に関する家がおいな のからに、表述とない。 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・未述と、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・未述と、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・よが、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・よが、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・よが、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・よが、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述の・よが、表述 「関照等に関する家がおいな のから、表述のよりの表述 技術のの知らな、表述、表述、ま述な、表述と、表述と、表述と、表述と、ま述な 「とい、表述を他性をのの思して、表述 技術のの知らな、表述 「と、対しな、表述 「と、対しな、表述 「と、が、表述の、表述 「と、が、表述の、表述 「と、が、表述の、表述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、表述の、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、ま述 「と、が、なが、ま述 「と、が、ま述 「なが、ま述 「なが、						< 業務宝績に対するコメント>					
元表地の手段を高度 味られる場所を表し、広端研究 (2) 社会的・新済的観点 (2) 化全長なた社会資本 を研究機長、広端研究 (2) (2) 社会的・新済的観点 (2) (2) 化全角 (2) (2) 化全角 (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)						(農水省所管の業務実績を踏まえたご意見、業務実績に対する今後の課題					
元表地の手段を高度 味られる場所を表し、広端研究 (2) 社会的・新済的観点 (2) 化全長なた社会資本 を研究機長、広端研究 (2) (2) 社会的・新済的観点 (2) (2) 化全角 (2) (2) 化全角 (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)						及び改善方策、確認事項など)					
化や良安心社会学な 広県・電域が注ぐ的価値(安全・安心で心造がな社会等) 公園を定義を発生を基準を表する基値)・発達的な研究開発・超速の である。		i i									
● ・ 文本でも豊かな社会等)。											
開発の推進の課題館 決定必要となる基础 の・先権的な研究師 発を計画的に進める のの限、長期 的地点も含かて、国 内外の社会的要語の 変化、多様な科学技 宿分野の要素技術の進 選集、兩学官各々の特性に ののと、基礎的・先端 的な連携等と留室し つつ、自然災害 的な意態が開発を被審 的に実施すること。 の作業の形の一 ので、多様な科学技 での要素技術のが 動作に配慮した有機的な運搬等 的な連携等と留室し つつ、最級済害 的な連携等と留意し つつ、最級済害 的な音が開発を被審 的に実施すること。 の作業のかかの対策 対策に関するとのか。 地位に配慮した有機のかめ対す 大機能相連方とかの対策 大機能相連方とかの対策 大機能相連方とが関係 を関係したのの分 がは、は物由来の模 材料の利用を何として低度素排出 を対象を対象とし、 に留意しつつ。自然災害 的な連携等と留言し つつ、基礎的・先端 的な声音をのが対すると、 の名を確 の名を確 の名を理解とを関係 の名を理解とを関係 の名を理解とを関係 の名を理解とを関係 の名を理解とを関係 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解とを対象 の名を理解と表する の名を理解と表する の名を理解と表すとして、したのの の表は、したのの理解を表すとして、したの表と のとして低度素排出 を必ず値した(なたのの理解を表すとしている。 の名を理解と表すとして、したの表と の表を対象をと述用したな世代 の者を対象ともれる等定の種類の を選集な形の形と、「達成 日本の知達 度」について、基準値(80%)を連 成した(20 数 生物検定注用したな世代 の者とはを有した(20 を をといて、基準値(80%)を連 成した(20 数 生物をなの手 をといて、基準値(80%)を連 成した(20 での評価結果は でと、「整定 は、一の選手を表 成した(20 のの を選集し対なと でと、基礎と対なと 21 を変もの研究と を選集と対なと でと、をなる手と技術の要 の。 を選集と対なと でもななの等 性に配慮した有機的な必要者等を表 値し、医のの。 を認し、医療的、光導的なが変形を を を をした有機のな必要者等を表 値した。医のの。 を を を を を を を を を を のと、 を を を を を を を を を のと、 を を を を を のと、 を を を を を を を のと、 を を を を を を を を を を を を を					1						
法に必要となる基礎	の整備及び北海道の	として位置づけ計画的に	全・安心で心豊かな社会等)								
商・先導的な研究開 宛を計画的に進める 京東 京東 京東 京東 京東 京東 京東 京				開発を基盤研究として 236 課題、ま	社会的価値の創出に貢献している。						
東を計画的に進める こと。その際、長期 的扱点から含めて、国 内外の社会的要請の 変化、多様な科学技 術分野の要素技術の 進版、産学百各々の 神性に配慮した有機 的な近光等限量を構 的な近光等で記念と つの大の部に関うる継続的な 市が、期間、研究制度を持 的な正規等に留念し つつ、基確的・先導 的に実施すること。 のとの、表に対して、多様な科学技 市が、方面の要素技術的 市が、中の収集・した有機的な連携等 的な正規等に留念し つつ、基確的・光導 的な正規等を指 的に実施すること。 のとの、表に対した のとの、中度では異雄(表の大力・対域的 市が、方面の、上の、大力・対域的 市が、方面の、上の、大力・対域的 市が、方面の、上の、大力・対域的 市が、方面に、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の、変化の	決に必要となる基礎	その際、研究開発の範囲、	るか。	た、より新規性に富んだ研究開発を	研究成果の一部が舗装再生便覧に						
こと。その際、長期 的視点も含めて、国 所外の社会的要請の 変化、多様な科学技 術分野の要素技術の 運販、産学官各々の特性に 配慮した有機的な連携等に留意しつつ、自然災害 や事業実施に伴う技術的問題等に関する継続的な 問題等に関する器検的な連 的に実施すること。 「以、現象やメカニズムの 解明、社会資本の耐火性 や機能進進のための新材 料の活用や評価手法等、 基礎的・先導的、大社等制明、社会資本の耐火性 や機能進進のための新材 料のお用を何として低炭素排出 直を評価した (p.109)。 ・①「新しい低環境負荷土木材料に 関連を評価した (p.109)。 ・②「微生物機能を活用した液性や 地域に食食が出木材料に 関連を評価した (p.109)。 ・②「微生物機能を活用した とので含す可能性を明らか にも、社会的価値の創出に貢献している。 「で選問が表現。」では、植物由来の樹脂 材料の利用を何として低炭素排出 直を評価した (p.109)。 ・②「微生物機能を活用した次世代 や機能進進のための新材 料の活用や評価手法等、 基礎的・先準的な研究間 発について積極的に実施 する。他分野や境界領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。	的・先導的な研究開	目的、目指すべき成果、		基盤研究(萌芽)として 19 課題実	反映される等、成果が適切な形で創						
前視点も含めて、国 内外の社会的要請の 変化、多様な科学技 第位ともに、23 年度から 26 年度 ま 観像 成員に用いる 微生物の効果の確 愛化、多様な科学技 術分野の要素技術の 進展、産学官各々の特性に 程度した有機的な連携等 的な連携等に留意し つつ、基礎的・光導 的な研究開発を褶極 的に実施すること。 「問題学の主が入生 や機能消遣のための新材 料の活用や電所主法 、 表確的・先導的な研究開 発に力いて積極的に実施 から着中や電所手法等、 表確的・先導的な研究開 発について積極的に実施 ・ の 等りが助けれる特定の 特別、社会資本の耐久性 や機能消遣のための新材 特別の活用や電所手法等、 表確的・先導的な研究開 発について積極的に実施 する。他分野や環見領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。	発を計画的に進める	研究期間、研究過程等の		施した (p.99)。	出されている。						
関係の主義的の選請の 変化、多様な科学技 術分野の要素技術の進展、産学官各々の 特性に配慮した有機的な連携等 に留意しつつ、自然災害 参事業業庭に伴う技術的 問題等に関する継続的な での全での年度で息輩値 80%を達 成した (p.98)。 主な取組は以下の通り ・①「新しい低環境負債土木材料に 関する研究」では、植物由来の樹脂 材料の利用を例として低炭素排出 量を評価と (p.109)。 「企量的な観点】 ・②「微生物機能を活用した次世代 や機能増進のための新材 料の活用や評価手法等、 基礎的・先導的な研究開 発について積極的に実施 する。他分野や境界領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。	こと。その際、長期	目標を明確に設定する。		・①②内部評価委員会における基盤	・②例えば「微生物機能を活用した						
変化、多様な科学技術の 進展、産学官各々の特性に 配慮した有機的な連携等に関立しつ、自然災害 や事業実施に伴う技術的 的な連携等に関する継続的な 一の、基礎的・先導的な所覚務を積極 的に実施すること。 のに実施すること。 のに実施すること。 のに実施すること。 のに実施のよめの新材料の利用を例として低炭素排出 最を評価した(p.109)。 ・②「微生物機能を活用した上の選化への 解明、社会資本の耐好性 や機能增進のための新材料の活用や評価手法等 基礎的・光導的な研究開発について積極的に実施 する。他分野や境界領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データへへスも有効に活用する。 の大事のでは、他の研究 機関等が保有・管理する データへへスも有効に活用する。	的視点も含めて、国	また、国内外の社会的要		研究の評価結果は、中間評価、事後	次世代地盤改良技術の研究」は、地						
横分野の要素技術の 進展、産学官各々の特性に 配慮した有機的な連携等に留意し つつ、自然災害 的な研究開発を積極 的に実施すること。 耐闘等に関する継続的な が代記 が成の正規等に関する継続的な がのに実施すること。 耐臓等に関する継続的な がのに実施すること。 耐臓等に関する継続的な がのに実施すること。 耐臓等に関する継続的な がのに実施すること。 耐臓等に関する継続的な がのに実施すること。 一多の収集・分析に基 づく現象やメカニズムの 解明、社会資本の耐久性 や機能増進のための新材 料の活用や評価手法等。 基礎的・先導的な研究開 発について積極的に実施 する。他分野や境界領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベスも有効に活 用する。	内外の社会的要請の	請の変化、多様な科学技		評価ともに、23年度から26年度ま	盤改良に用いる微生物の効果の確						
進展、産学官各々の特性に配慮した有機的な連携等に留意しつつ、自然災害 のな連携等に留意しつつ、自然災害 のな研究開発を積極的、失導 的な研究開発を積極的に実施すること。 が	変化、多様な科学技	術分野の要素技術の進		での全ての年度で基準値 80%を達	認手法を提案し、実施工で効果的に						
特性に配慮した有機 的な連携等に留意し つつ、自然災害 や事業実施に伴う技術的 問題等に関する継続的な データの収集・分析に基 的な研究開発を積極 的に実施すること。	術分野の要素技術の	展、産学官各々の特性に		成した (p.98)。	地盤内に微生物を注入して固化さ						
的な連携等に留意し つつ、基礎的・先導 問題等に関する継続的な	進展、産学官各々の	配慮した有機的な連携等			せることができる可能性を明らか						
つつ、基礎的・先導的な研究開発を積極 がこうない では、植物由来の樹脂 が	特性に配慮した有機	に留意しつつ、自然災害		主な取組は以下の通り	にし、社会的価値の創出に貢献して						
的な研究開発を積極 データの収集・分析に基 づく現象やメカニズムの解明、社会資本の耐久性や機能増進のための新材料の利用を例として低炭素排出 量を評価した (p.109)。	的な連携等に留意し	や事業実施に伴う技術的		・①「新しい低環境負荷土木材料に	いる。						
動に実施すること。	つつ、基礎的・先導	問題等に関する継続的な		関する研究」では、植物由来の樹脂	【定量的な観点】						
解明、社会資本の耐久性や機能増進のための新材料の活用や評価手法等、基礎的・先導的な研究開発について積極的に実施する。他分野や境界領域を視野に入れ、他の研究機関等が保有・管理するデータベースも有効に活用する。	的な研究開発を積極	データの収集・分析に基		材料の利用を例として低炭素排出	・①②評価委員会での評価結果は						
や機能増進のための新材料の活用や評価手法等、 基礎的・先導的な研究開発について積極的に実施する。他分野や境界領域を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活用する。	的に実施すること。	づく現象やメカニズムの		量を評価した (p.109)。	「進捗状況」、「達成目標への到達						
料の活用や評価手法等、 基礎的・先導的な研究開発について積極的に実施する。他分野や境界領域を視野に入れ、他の研究機関等が保有・管理するデータベースも有効に活用する。		解明、社会資本の耐久性		・②「微生物機能を活用した次世代	度」について、基準値(80%)を達						
基礎的・先導的な研究開発について積極的に実施する。他分野や境界領域を視野に入れ、他の研究機関等が保有・管理するでは、2000年のでは、2000年の関係を表現した(p.109)。 27 年度も引き続き、国内外の社会的要請の変化、多様な科学技術分野の要素技術の進展、産学官各々の特性に配慮した有機的な連帯等を考慮し、基礎的、先導的な研究開発を計画的に実施することで、中期目標		や機能増進のための新材		地盤改良技術の研究」においては、	成している。						
発について積極的に実施する。他分野や境界領域を視野に入れ、他の研究を視野に入れ、他の研究を機関等が保有・管理するでデータベースも有効に活用する。		料の活用や評価手法等、		微生物大社を利用した土の固化へ							
する。他分野や境界領域 を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。 した(p.109)。 的要請の変化、多様な科学技術分野 の要素技術の進展、産学官各々の特 性に配慮した有機的な連帯等を考 慮し、基礎的、先導的な研究開発を 計画的に実施することで、中期目標		基礎的・先導的な研究開		の寄与が知られる特定の種類の外	<課題と対応>						
を視野に入れ、他の研究 機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。 の要素技術の進展、産学官各々の特 性に配慮した有機的な連帯等を考 慮し、基礎的、先導的な研究開発を 計画的に実施することで、中期目標		発について積極的に実施		来種に依存しない改良技術を検討	27 年度も引き続き、国内外の社会						
機関等が保有・管理する データベースも有効に活 用する。		する。他分野や境界領域		した (p.109)。	的要請の変化、多様な科学技術分野						
データベースも有効に活用する。 慮し、基礎的、先導的な研究開発を計画的に実施することで、中期目標		を視野に入れ、他の研究			の要素技術の進展、産学官各々の特						
用する。 計画的に実施することで、中期目標		機関等が保有・管理する			性に配慮した有機的な連帯等を考						
		データベースも有効に活			慮し、基礎的、先導的な研究開発を						
の達成は可能であると考えている。		用する。			計画的に実施することで、中期目標						
					の達成は可能であると考えている。						

4. その他参考情報

(諸情勢の変化、評価対象法人に係る分析等、必要に応じて欄を設け記載)